



2023年度 第3四半期決算報告

2024年2月13日

日清食品ホールディングス株式会社
(証券コード：2897)

決算説明会開催日：2024年2月13日

- ・ CFOの矢野でございます。
- ・ 本日は、当社の第3四半期決算の状況について、既に開示しております「2023年度第3四半期決算報告」の資料に基づき、ご報告させていただきます。
- ・ なお、ページ番号は、資料の右下にある数字でお話しします。

本日のポイント

Point 1 : 3Q累計業績

- 売上収益は前期比+9.5%、既存事業コア営業利益は同+41.8%と、増収・増益を達成

Point 2 : 事業部門別動向

- **国内即席めん事業 : 増収・増益**
6月の価格改定後も、数量は前期比微減。商品ミックスの改善進み、修正計画インライン
- **国内非即席めん事業 : 増収・増益**
日清ヨーク：7月の価格改定後も、数量は好調キープ、通期着地上振れへ
湖池屋：7月の価格改定後も、数量は右肩上がりの増加トレンド、通期業績予想を上方修正
- **海外事業 : 増収・増益**
米州・アジア・EMEAは引き続き増収増益。中国はマクロ環境逆風下、利益は前期水準超え
米国事業：3Q（3か月）は数量増。市場ニーズにも柔軟に対応しつつ、プレミアム商品の強化継続

1

- ・ 1ページをご覧ください。
- ・ 本日も伝えたいポイントをまとめています。
- ・ まず、2023年度第3四半期の業績ですが、昨年来、日本及び各国で実施してきた価格改定効果を主因に、売上収益は前期比プラス9.5%、既存事業コア営業利益は前期比プラス41.8%の増収・増益となりました。
- ・ 事業部門別の動向ですが、まず、国内即席めん事業です。
- ・ 6月に2年連続となる価格改定を実施しましたが、数量は前期比微減にとどまり、増収増益となりました。インフレが続く環境下、価格コンシャス商品で需要を着実に取り込みながら、レギュラー商品への回帰を狙った施策が奏功し、第2四半期以降、商品ミックスの改善が進んでいる状況です。
- ・ 次に国内非即席めん事業です。
- ・ 国内非即席めん事業は、日清ヨーク・湖池屋が好調を維持し、増収・増益となりました。日清ヨークは、7月の価格改定後も、ピルクルシリーズを中心に好調をキープしていることに加え、ヨーグルト飲料の十勝シリーズも足元で大きく伸長しています。湖池屋も、7月の価格改定がありましたが、主力商品を中心に数量が右肩上がり増加しており、本日、通期業績予想を、再度、上方修正しております。
- ・ 最後に海外事業です。
- ・ 海外事業は引き続き増収・増益となりました。米州・アジア・EMEA地域は増収・増益。中国地域はマクロ環境が非常に厳しい中で減収となりましたが、数量の改善や資材コスト減少もあり、増益で着地しております。なお、米国事業の10-12月期の数量は増加に転じており、一時費用11億円を除いたベースの利益は前年同水準となり、高い利益率をキープしております。

2023年度 3Q実績

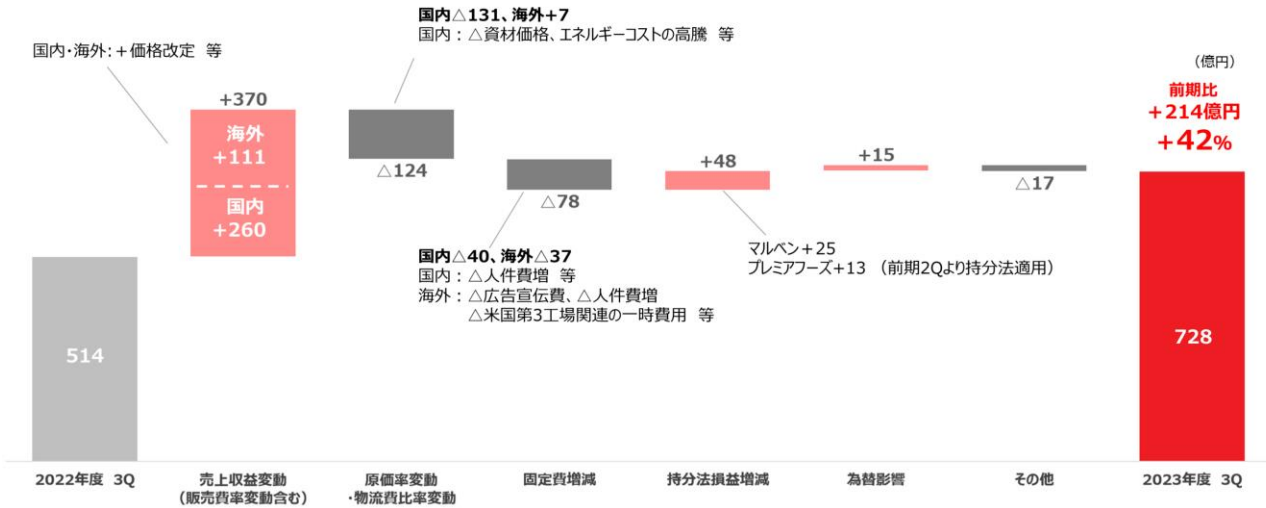
2023年度3Q 連結決算サマリー

単位：億円	2023年度3Q 決算開示ベース			2023年度3Q 為替一定ベース		
	実績	前期比		実績	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上収益	5,489	+ 475	+ 9.5%	5,366	+ 351	+ 7.0%
既存事業コア営業利益	728	+ 214	+ 41.8%	713	+ 200	+ 38.9%
営業利益	686	+ 199	+ 40.8%	671	+ 184	+ 37.7%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	491	+ 141	+ 40.5%	480	+ 130	+ 37.3%
既存事業コア営業利益率	13.3%	+ 3.0pt		13.3%	+ 3.0pt	
営業利益率	12.5%	+ 2.8pt		12.5%	+ 2.8pt	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益率	8.9%	+ 2.0pt		8.9%	+ 2.0pt	

3

- ・ 3ページをご覧ください。
- ・ 左側に「決算開示ベース」の第3四半期実績を記載しております。
- ・ 売上収益は、即席めん事業、非即席めん事業、海外事業の3事業いずれも増収となり、5,489億円、前期比プラス475億円、プラス9.5%の増収となりました。
- ・ 既存事業コア営業利益も、3事業いずれも増益となり、728億円、前期比プラス214億円、プラス41.8%の増益となりました。
- ・ 売上と既存事業コア営業利益ともに、第3四半期としては過去最高を更新しています。

既存事業コア営業利益の増減要因



* 細目は前期為替一定ベース
* 国内その他セグメント、その他連結調整及びグループ関連費用のコア営業利益増減は「その他」に含めて表示

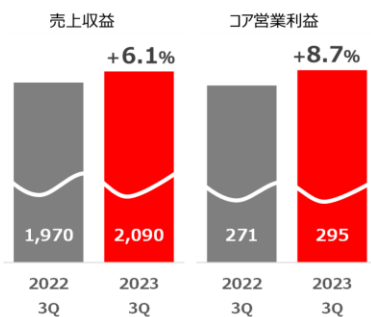
- ・ 4ページをご覧ください。
- ・ こちらのページは第3四半期の既存事業コア営業利益の増減要因を分析したもので、細目は「為替一定ベース」で表示しております。
- ・ 左から2番目のピンクのグラフでお示している売上収益変動の増加要因が、3番目および4番目のグレーのグラフのコスト増加要因を上回ったことを主因に、増益着地となりました。
- ・ 国内事業・海外事業で分けて分析しますと、ご覧の通り、海外事業は資材価格の上昇トレンドが落ち着き、価格改定効果がダイレクトに増益に寄与したかたちとなりました。国内事業は、引き続き原材料やエネルギーなどのコスト増加要因がありますが、価格改定効果などでカバーし、増益に転じています。
- ・ 2022年度第2四半期より持分法適用会社化したプレミアフーズなど、持分法損益も増益に寄与しました。

セグメント別 決算サマリー

価格改定後も底堅い需要を取り込み、3事業すべて増収増益
海外事業が全体の増益を牽引、飲料・菓子が引き続き好調な国内非即席めん事業も大幅増益

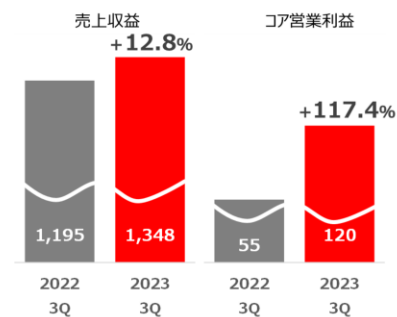
国内即席めん事業

価格改定、好調な高付加価値商品により日清食品・明星食品共に増収。資材価格上昇によるコスト増をカバーし増益



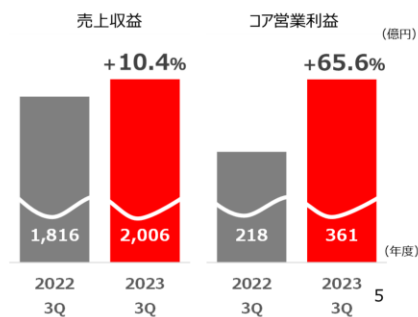
国内非即席めん事業

高付加価値商品の好調に加え、価格改定もあり、全事業で増収増益。日清ヨーク・湖池屋の増益が大きく貢献



海外事業

米国の価格改定効果、好調なアジア地域の貢献に加え、昨年2Qから持分法適用会社化したプレミアムフーズの影響もあり、大幅増益



- 続きまして、5ページはセグメント別の決算サマリーです。引き続き、全セグメントで、増収増益となっています。次ページ以降で詳しく説明いたします。

セグメント別 売上収益実績

価格改定効果も加わり、連結全体で増収

単位：億円	2023年度3Q 決算開示ベース			2023年度3Q 為替一定ベース		
	業績	前期比		業績	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	1,771	+ 101	+ 6.1%	1,771	+ 101	+ 6.1%
明星食品	319	+ 19	+ 6.4%	319	+ 19	+ 6.4%
国内即席めん事業	2,090	+ 121	+ 6.1%	2,090	+ 121	+ 6.1%
低温・飲料事業	715	+ 70	+ 10.9%	715	+ 70	+ 10.9%
菓子事業	633	+ 83	+ 15.1%	633	+ 83	+ 15.1%
国内非即席めん事業	1,348	+ 153	+ 12.8%	1,348	+ 153	+ 12.8%
国内その他	45	+ 11	+ 32.9%	45	+ 11	+ 32.9%
国内事業 計	3,484	+ 285	+ 8.9%	3,484	+ 285	+ 8.9%
米州地域	1,192	+ 144	+ 13.8%	1,102	+ 55	+ 5.2%
中国地域	488	△ 13	△ 2.6%	478	△ 24	△ 4.7%
アジア地域	156	+ 13	+ 8.7%	149	+ 5	+ 3.8%
EMEA地域	169	+ 46	+ 37.0%	153	+ 30	+ 24.0%
海外事業 計	2,006	+ 190	+ 10.4%	1,882	+ 66	+ 3.6%
連結 計	5,489	+ 475	+ 9.5%	5,366	+ 351	+ 7.0%

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づく
 * 「国内その他」には新規事業も含む
 * 2023年度1Qより、ベトナム日清が中国地域セグメントに移管したため、前期の数字も選及修正

6

- 6ページをご覧ください。
- こちらはセグメント別売上収益実績のブレイクダウンです。
- 国内即席めん事業は前年比プラス121億円、プラス6.1%の増収となりました。今年の6月に2年連続となる価格改定を実施しましたが、数量を前期比微減に留め、堅調に推移しております。
- 価格改定直後は、需要の強い価格コンシャス商品を中心に販売を強化し、7月以降は、価格コンシャス商品からレギュラー商品へのシフトを狙い、新商品や拡販費の投入といった施策を戦略的に行ったことで、レギュラー商品の数量は概ね前年並みに回帰しました。
- 国内非即席めん事業は、前期比プラス153億円、プラス12.8%の増収となりました。引き続き、日清ヨークと湖池屋が増収に大きく寄与し、日清ヨークは昨年9月発売のミラクルケアの一巡もある中、引き続き前年比数量増を維持しております。湖池屋も今年の7月に実施した価格改定以降の数量がダブルディジットで成長しています。
- 海外事業は、前期比プラス190億円、プラス10.4%のダブルディジット増収となりました。マクロ経済環境が逆風にある中国のみ減収となっていますが、他の海外地域は全て増収となり、貢献の大きい米州地域に加え、アジア地域も大きく海外事業を牽引しました。

セグメント別 コア営業利益実績

海外事業・日清ヨーク・湖池屋が引き続き全体を牽引し、連結全体で前期比約1.4倍の増益

単位：億円	2023年度3Q 決算開示ベース					2023年度3Q 為替一定ベース		
	営業利益	その他 収支	コア営業利益	前期比		コア営業利益	前期比	
				増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	272	1	271	+ 21	+ 8.6%	271	+ 21	+ 8.6%
明星食品	24	1	23	+ 2	+ 9.6%	23	+ 2	+ 9.6%
国内即席めん事業	296	1	295	+ 24	+ 8.7%	295	+ 24	+ 8.7%
低温・飲料事業	73	1	73	+ 39	+ 117.8%	73	+ 39	+ 117.8%
菓子事業	46	△ 1	47	+ 26	+ 116.9%	47	+ 26	+ 116.9%
国内非即席めん事業	119	△ 1	120	+ 65	+ 117.4%	120	+ 65	+ 117.4%
国内その他	12	0	12	△ 4	△ 26.4%	12	△ 4	△ 26.4%
国内事業 計	428	1	427	+ 84	+ 24.5%	427	+ 84	+ 24.5%
米州地域	181	0	181	+ 85	+ 89.0%	169	+ 73	+ 76.4%
中国地域	54	0	54	+ 0	+ 0.3%	53	△ 1	△ 0.9%
アジア地域	53	△ 0	53	+ 20	+ 61.1%	50	+ 17	+ 50.9%
EMEA地域	71	△ 2	73	+ 37	+ 104.2%	74	+ 39	+ 107.5%
海外事業 計	359	△ 2	361	+ 143	+ 65.6%	346	+ 128	+ 58.7%
国内・海外事業 計	787	△ 1	788	+ 227	+ 40.5%	773	+ 212	+ 37.8%
その他連結調整	△ 4	△ 3	△ 1	+ 0	-	△ 1	+ 0	-
グループ関連費用	△ 59	-	△ 59	△ 13	-	△ 59	△ 13	-
既存事業 計	724	△ 4	728	+ 214	+ 41.8%	713	+ 200	+ 38.9%
新規事業	△ 39	0	△ 39	△ 11	-	△ 39	△ 11	-
連結 計	686	△ 3	689	+ 203	+ 41.8%	674	+ 188	+ 38.7%

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づ

* 2023年度 1 Qより、ベトナム日清が中国地域セグメントに移管したため、前期の数字も溯及修正

7

- ・ 7ページをご覧ください。
- ・ セグメント別コア営業利益の実績です。
- ・ 国内事業については、円安傾向が継続していることから、資材・エネルギーコストが前期比では増加しており、収益の圧迫要因となっていますが、期初に見込んでいたコストの増加の内側に入っている状況です。
- ・ 国内非即席めん事業は、日清ヨーク、湖池屋がドライバーとなり、前期比プラス65億円、2.2倍の増益となりました。
- ・ 海外事業は、増収効果に加え、資材コスト減少等の要因もあり、前期比プラス143億円、1.7倍の増益となりました。
- ・ また、昨年第2四半期から持分法化したプレミアフーズをはじめ、持分法適用会社の好業績によるプラスオン効果も増益要因となりました。

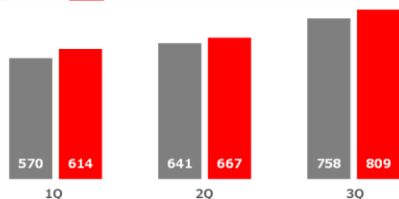
事業の状況

国内即席めん事業

主力商品を中心とした拡販に加え、価格改定も奏功し、資材価格上昇するも増収増益

売上収益 (億円)

■ 前期 ■ 当期



日清食品 (3Q累計 +6%)

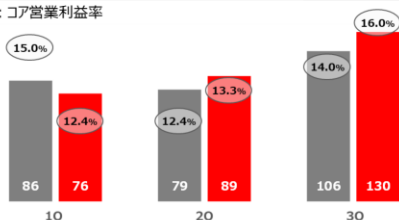
カップめん：新商品「カップヌードル具材まみれ」シリーズなど、お客さまニーズを捉えた商品が貢献
袋めん：「チキンラーメン」などのロングセラー商品が好調

明星食品 (3Q累計 +6%)

カップめん：「ロカボNOODLESおいしさプラス」、「一平ちゃん夜店の焼きそば」などが貢献
袋めん：「チャルメラ」が好調

コア営業利益 (億円)

%：コア営業利益率



日清食品 (3Q累計 +9%)

+) 売上増加による利益増

△) 資材価格上昇、広告宣伝費の増加等

明星食品 (3Q累計 +10%)

+) 売上増加による利益増

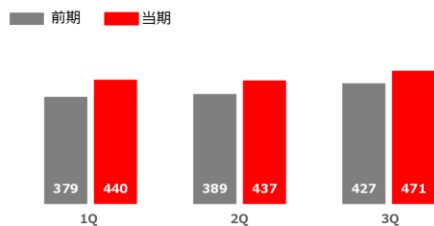
△) 資材価格上昇、広告宣伝費の増加等

- 9ページをご覧ください。ここから15ページまでは、各セグメント別の「事業の状況」です。
- まず、国内即席めん事業ですが、概ね計画線での順調な進捗と評価しています。
- 販売数量は前年同期と同水準、2年連続の価格改定効果もあり、前年の売上収益を上回って推移しています。これは、国内においても様々な食料品価格が上昇するなか、相対的に低価格の即席めんの需要が伸びていることが背景にあると考えています。
- 日清食品では、「あっさり」シリーズなどの価格コンシャス商品の販売をこれまで強化してきましたが、価格改定以降、付加価値型の新商品を投入することでカップヌードルレギュラー商品の需要回復につなげ、二極化する消費者ニーズにしっかり対応することができました。この結果、数量・金額とも市場を上回る販売実績となりました。
- 明星食品では、「ロカボNOODLES」などの高付加価値商品の販売が高水準を維持していることに加え、「一平ちゃん夜店の焼きそば」や「チャルメラ」など主力ブランドも順調に推移しております。
- 足許の資材・エネルギー価格につきましては、期初予想よりも少ない水準で推移しているものの、為替や中東情勢など地政学リスク、エルニーニョ現象による干ばつの懸念など、相場を押し上げる懸念材料も出てきておりますので引き続き注視していく必要があると考えております。

国内非即席めん事業

乳酸菌飲料「ピルクル」シリーズ、「十勝のむヨーグルト」が好調であった日清ヨーク、主力商品が引き続き好調であった湖池屋が貢献し、増収増益

売上収益 (億円)



チルト (3Q累計 +6%) : パスタ、焼そば、夏場の冷し中華の好調に加え、賞味期限を40日から60日へ延長し、リニューアルした「行列のできる店のラーメン」が堅調に推移

冷凍 (3Q累計 +4%) : 「冷凍 日清中華」、「冷凍 日清まぜ麺亭」などラーメン、うどんが好調

ヨーク (3Q累計+35%) : 「ピルクル400」、「ピルクル ミラクルケア」好調、「十勝のむヨーグルト」伸長

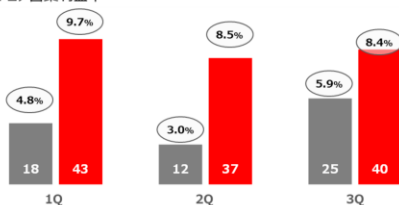
シスコ (3Q累計 +4%) : 「シスコーン」シリーズ、「ココナッツサブレ」シリーズが堅調に推移

ほんち (3Q累計 +0%) : 前年を僅かに上回り着地

湖池屋 (3Q累計+24%) : 「湖池屋ポテトチップス」シリーズ、「スコーン」シリーズなど主力商品を中心に販売が拡大

コア営業利益 (億円)

% : コア営業利益率



チルト 3Q累計 増益 : 資材価格上昇も売上増加および価格改定効果により増益

冷凍 3Q累計 増益 : 資材価格上昇も売上増加および価格改定効果により増益

ヨーク 3Q累計 増益 : 資材価格上昇も売上増加および価格改定効果により増益

シスコ 3Q累計 増益 : 価格改定効果等により増益

ほんち 3Q累計 減益 : 資材価格上昇等により減益

湖池屋 3Q累計 増益 : 販売拡大および価格改定効果により増益

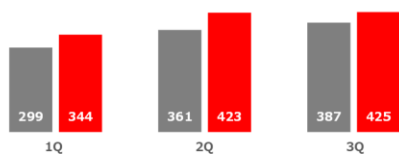
- ・ 10ページをご覧ください。
- ・ ほぼ全ての事業会社で増収・増益となっていますが、引き続き、特に日清ヨーク・湖池屋のビジネスが好調で、利益面での貢献が大きくなってきています。

米州地域

高付加価値商品の提案強化・導入推進に加えて、価格改定効果により、3Q累計で増収増益

売上収益 (億円)

■ 前期 ■ 当期



米国：高付加価値商品の販売強化、価格改定効果により3Q累計で増収 (為替影響 +31億円)

メキシコ：数量増、価格改定効果により増収 (為替影響 +25億円)

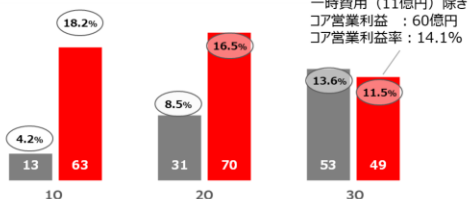
ブラジル：一時的な生産設備メンテナンス等による販売数量減も価格改定効果および為替影響により増収 (為替影響 +34億円)

10-12月 前期比 3Q累計 前期比

	売上収益 (前増為替一定ベース)	数量	売上収益 (前増為替一定ベース)	数量*
米国	△1%	+1桁前半%	+8%	△1桁前半%
メキシコ	+19%	+2桁前半%	+20%	+2桁前半%
ブラジル	+2%	△1桁後半%	△4%	△2桁前半%

コア営業利益 (億円)

% : コア営業利益率



一時費用 (11億円) 除き
コア営業利益 : 60億円
コア営業利益率 : 14.1%

米国：3Q累計 増益

3Qに第3工場建設関連等の一時費用 (11億円) が発生、マーケティング費用が増加するも、価格改定効果により3Q累計で増益 (為替影響 +6億円)

メキシコ：3Q累計 増益

販売数量増及び価格改定により資材価格上昇を吸収し、増益 (為替影響 +3億円)

ブラジル：3Q累計 減益

販売数量減に伴い減益 (為替影響 +3億円)

* 米国の売上収益の増減は、米国日清、明星USAの合計
* 数量は管理ベースで記載

11

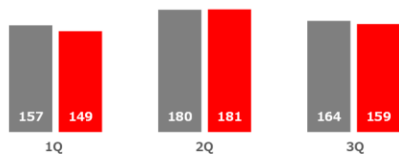
- 11ページをご覧ください。
- 海外事業も、マクロ経済環境の影響を受けた中国地域を除き、好調に進捗しております。
- まず、米州地域です。2022年8月に平均36%の価格改定を実施した米国事業が全体を牽引している構図が続きますが、第3四半期単体の利益を切り取ると、第3工場関連の一時費用11億円を計上した影響もあり、利益率が低くみえます。ただし、こちらの一時コストを除くと、価格改定効果が一巡する中で、前年同期と同等水準である、10%台後半の利益率を維持しております。
- 米国の即席めん市場全体は、各社の価格改定後も強い需要環境が続いていますが、足元では少し落ち着きつつある状況で、数量ベースでは概ね前年横這い圏の水準となっております。
- 米国日清の数量実績ですが、上期は前年の価格改定前の駆け込み需要の反動などもあり、プレミアム群を中心に前年同期比で1桁台後半の減少となりましたが、第3四半期以降、ブランディングの要となるプレミアム群の数量が前年水準並みまで回復しつつある状況です。第4四半期は各種キャンペーンによる販促活動を通じて、このモメンタムを加速化して行きます。
- 速報ベースとなりますが、販促活動の押し上げ効果もあり、足元1月の販売数量は2020年4月のパンデミックを超え過去最高を記録し、ベース・プレミアムとも前年同月比ダブルディジットで増加しています。なお、年間の数量は期初目標である前年水準圏までもっていきたいと考えています。引き続き、日清ブランド定着と数量維持に向け、拡販費やマーケティング費用などをしっかり使っていく予定です。
- メキシコは、袋めん市場が拡大基調にあるなど、堅調な需要を背景に引き続き数量が伸びていること、また、価格改定効果もあり、増収・増益となりました。利益率も、着実に上昇しています。
- ブラジルは、第1四半期に発生していた生産トラブルは解消したものの、第3四半期は豪雨やハリケーンによる地域全体の停電の影響に伴う生産数量減により、数量は前年割れとなりましたが、今年6月の価格改定効果により増収となりました。
- 第3四半期までの累計では、利益面は資材の下落影響はあったものの、生産数量減により減益となりました。市場全体の需要は底堅い状況が続いていますので、既存工場の生産体制強化を進めることで、早期のキャッチアップを目指していきます。

中国地域

原材料価格低下を主因に、コア営業利益は3Q累計では前年同期を上回る

売上収益 (億円)

■ 前期 ■ 当期



香港他：袋めんの販売数量減により減収 (為替影響 +9億円)

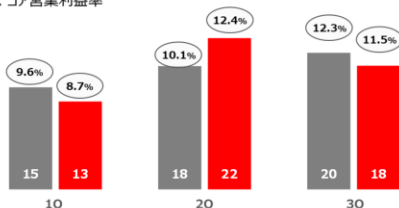
大陸：販売数量減に伴い減収 (為替影響 +2億円)
主力のカップめんの販売数量は新規開拓もあり改善

3Q累計 前期比

	売上収益 (前期為替一定ベース)	数量*
香港他	△9%	△1桁後半%
大陸	△2%	△1桁前半%

コア営業利益 (億円)

% : コア営業利益率



香港他：3Q累計 減益

販売数量減により減益 (為替影響 +0億円)

大陸：3Q累計 増益

カップめんの販売数量の改善と原材料コスト減に伴い増益 (為替影響 +0億円)

* 数量は香港・大陸の管理ベースで記載
** 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づくもの
*** 2023年度1Qより、ベトナム日清が中国地域セグメントに移管したため、前期の数字も適及修正

12

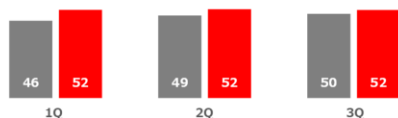
- ・ 12ページをご覧ください。
- ・ 中国地域は、景気減速による消費センチメントの悪化や若年層の失業率拡大など厳しい状況が続いており、中国沿岸都市部の主力購買層の購買力低下により苦戦しています。
- ・ 一方、都市部から少し離れた内陸、特に当社が従来十分にカバーできていなかった北部・西部地区での新たな販路開拓が徐々に進んできたことで、主力の合味道ブランドの販売数量も改善傾向にあります。
- ・ 利益面は、新たな地域での販売拡大に加え、資材コストの上昇が落ち着いてきた影響もあり、第3四半期通期では前年を超える利益水準で着地しております。ブランドイメージの維持・向上や消費者の掘り起こしのため、販売促進活動を継続し、中長期的な顧客層の拡大を目指します。

アジア地域

各国の価格改定および資材価格の低下によりタイを中心に全地域で増益

売上収益 (億円)

■ 前期 ■ 当期



売上額が多い順

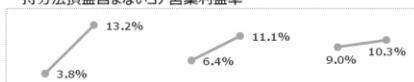
タイ：3Q累計 増収 (為替影響 +3億円)
 インド：3Q累計 増収 (為替影響 +0.6億円)
 シンガポール：3Q累計 増収 (為替影響 +2億円)
 インドネシア：3Q累計 減収 (為替影響 +0.7億円)

コア営業利益 (億円)

%：コア営業利益率



* 持分法損益含まないコア営業利益率



利益額が多い順 (持分法適用会社除く)

タイ：3Q累計 増益 (為替影響 +0.7億円)
 シンガポール：3Q累計 増益 (為替影響 +0.4億円)
 インドネシア：3Q累計 増益 (為替影響 +0.1億円)
 インド：3Q累計 黒字転換 (為替影響 +0.0億円)

持分法による投資損益

タイフレ：3Q累計 22億円 (前期比:+8億円 (為替影響 +1.7億円))
 NURC：3Q累計 13億円 (前期比:+4億円 (為替影響 +0.5億円))

* 2023年度1Qより、ベトナム日満が中国地域セグメントに移管したため、前期の数字も遡及修正

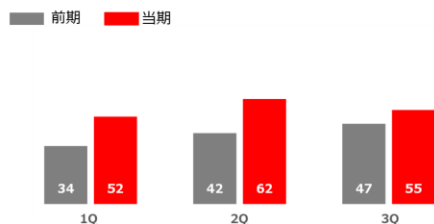
13

- ・ 13ページをご覧ください。
- ・ アジア地域は、市場でのプレゼンスが着実に拡大しているタイを筆頭に、持分法適用会社の収益回復もあり、増益基調が継続しています。

EMEA地域

成長著しい即席めん市場において、増収トレンド継続

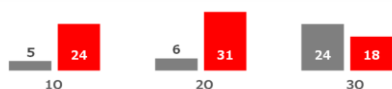
売上収益 (億円)



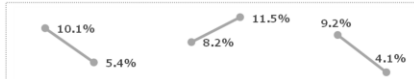
- 「CUP NOODLES」、「Soba」、「Demae Ramen」ブランドが引き続き好調に推移
- イギリス、ドイツ、フランスを中心に増収 (為替影響 +16億円)

コア営業利益 (億円)

% : コア営業利益率



* 持分法損益含まないコア営業利益率



欧州 : 3Q累計 増益

売上増により増益(為替影響 +1億円)

持分法による投資損益

マルベン : 3Q累計 31億円 (前期比: +22億円 (為替影響△4億円))

プレミアフーズ : 3Q累計 29億円 (前期比: +15億円 (為替影響 +2億円))

* プレミアフーズは2022年度2Qより持分法損益を計上 FY2022 1Q - 2Q 5億円
FY2023 1Q 10億円 2Q 13億円

14

- 14ページをご覧ください。
- EMEA地域は、第3四半期までの累計では、順調に利益が積みあがっていますが、第3四半期単体では前期比減益となっています。これは、持分法適用会社2社の影響が大きく出ていることが主因です。
- まず、マルベンですが、持分法収益は取込み時期にズレがありますので、当社の第3四半期、同社の第2四半期の期間のルールが対円で下落したことから、円ベースでは減益でしたが、現地通貨ベースでは増益となっています。
- また、プレミアフーズは、最需要期である10-12月期を見据えたマーケティング施策を7-9月期に投入した影響で、当社の第3四半期・同社の第2四半期では一時的に減益となりましたが、次の当社の第4四半期は増益基調に戻る見込です。

米州地域における新工場について

各国での即席めん市場の旺盛な需要に対応すべく生産能力を増強、既存工場とも連携し生産・配送効率を高め、さらなる収益改善・拡大を目指す

米国日清新工場 ～グリーンビル工場～

- 高付加価値製品のラインナップ拡充、生産・配送効率改善に向けて
2025年8月より稼働予定



外観イメージ



- ✓ 敷地面積 206,390㎡
- ✓ 工場延床面積 59,517㎡
- ✓ 投資金額 約228百万ドル (約342億円*)

*1米ドル=150円として算出

ブラジル日清新工場 ～ポントグロッサ工場～

- ブラジル全土への安定供給、輸出用製品や即席めん以外のカテゴリも含めた製品ラインアップの拡充に向けて2026年3月より稼働予定



外観イメージ



- ✓ 敷地面積 413,223㎡
- ✓ 工場延床面積 68,236㎡
- ✓ 投資金額 約1,051百万レアル (約315億円*)

*1ブラジルレアル=30円として算出

- ・ 15ページをご覧ください。
- ・ 米州地域の設備投資につきましてもお話しします。既に皆さまにもお伝えしております2023年11月9日リリースの米国サウスカロライナ州グリーンビル新工場の建設に続いて、2023年12月6日には、ブラジルのパラナ州ポントグロッサ新工場の建設に関するリリースをしております。
- ・ ブラジルでは、1981年稼働のイビウナ工場、2012年稼働のグロリアドゴイタ工場に次ぐ3番目の生産拠点となります。2024年6月に着工し、2026年3月の稼働開始を予定しています。拡大するブラジルの即席めん需要に対応するとともに、輸出用製品の生産強化や即席めん以外のカテゴリも含めた製品ラインアップの拡充を図り、さらなる収益の拡大を目指していきます。
- ・ 私からの説明は以上となります。

Appendix

米州地域および海外地域全体の売上収益・数量 前期比

	2022年度				2023年度					
	10-12月		1-3月		4-6月		7-9月		10-12月	
	売上収益 前期為替一定 ベース	数量	売上収益 前期為替一定 ベース	数量	売上収益 前期為替一定 ベース	数量	売上収益 前期為替一定 ベース	数量	売上収益 前期為替一定 ベース	数量
米国	+59%	+1桁前半%	+37%	△1桁前半%	+27%	△1桁後半%	+5%	△1桁前半%	△1%	+1桁前半%
メキシコ	+34%	+1桁前半%	+21%	△1桁前半%	+13%	+1桁前半%	+29%	+2桁前半%	+19%	+2桁前半%
ブラジル	+18%	△1桁前半%	+21%	△1桁前半%	△19%	△2桁前半%	+5%	△1桁前半%	+2%	△1桁後半%
海外全体	+25%	+1桁前半%	+20%	△1桁前半%	+5%	△2桁前半%	+6%	△1桁前半%	△0%	△1桁前半%

2023年度 10-12月
前年比
参考情報

	売上収益 前期為替一定ベース	数量
米州地域	+1.7%	△1桁前半%
中国地域	△6.4%	△1桁前半%
その他海外地域 計	+2.6%	△1桁後半%

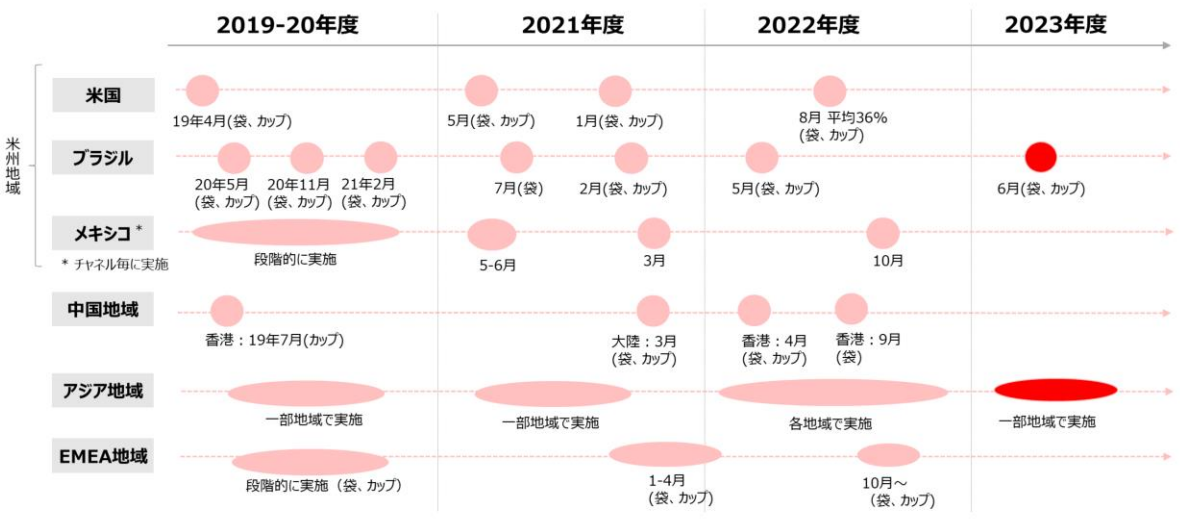
- * 数量は管理ベースで記載
- * 米国の売上収益の増減は、米国日清、明星USAの合計

主な価格改定推移 (国内)



*()内は改定率
*2024年1月時点

主な価格改定推移（海外）



*2024年1月時点

2023年度通期連結業績予想の修正

単位：億円	通期修正予想（2023年11月9日発表）				
	2023年度 予想	vs. 期初予想		vs. 前期	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	7,200	+ 100	+ 1.4%	+ 508	+ 7.6%
既存事業コア営業利益	800	+ 160	+ 25.0%	+ 198	+ 32.9%
営業利益	735 ～ 765	+ 160	+ 26.4% ～ + 27.8%	+ 179 ～ + 209	+ 32.1% + 37.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	535 ～ 555	+ 110	+ 24.7% ～ + 25.9%	+ 87 ～ + 107	+ 19.5% + 24.0%
既存事業コア営業利益率	11.1%	+ 2.1pt		+ 2.1pt	
営業利益率	10.2% ～ 10.6%	+ 2.1pt		+ 1.9pt ～ + 2.3pt	
親会社の所有者に帰属する 当期利益率	7.4% ～ 7.7%	+ 1.4pt		+ 0.7pt ～ + 1.0pt	

2023年度通期連結業績予想の修正 3事業別

単位：億円	通期修正予想（2023年11月9日発表）				
	2023年度 予想	vs. 期初予想		vs. 前期	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	7,200	+ 100	+ 1.4%	+ 508	+ 7.6%
うち国内即席めん事業	2,730	± 0	± 0.0%	+ 123	+ 4.7%
うち国内非即席めん事業	1,720	+ 45	+ 2.7%	+ 111	+ 6.9%
うち海外事業	2,680	+ 55	+ 2.1%	+ 250	+ 10.3%
既存事業コア営業利益	800	+ 160	+ 25.0%	+ 198	+ 32.9%
うち国内即席めん事業	320	+ 15	+ 4.9%	+ 31	+ 10.9%
うち国内非即席めん事業	118	+ 45	+ 61.6%	+ 50	+ 74.4%
うち海外事業	429	+ 100	+ 30.4%	+ 131	+ 44.2%

本資料に掲載しております当社グループの計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場の大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきください。

また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさっていただきますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算短信・補足資料・決算説明会関連資料」に掲載しています
<https://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、千円単位で算出し、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が一致しない場合があります
- 当該資料の決算期は原則として、20YY年4月1日～20YY年3月31日を「20YY年度」または「YY年度」とします
- 中国地域の実績は、日清食品ホールディングス連結の方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。また、中国地域の戦略、それに基づく各種目標ならびに業績予想は日清食品ホールディングスが独自に設定したものです



日清食品ホールディングス株式会社